

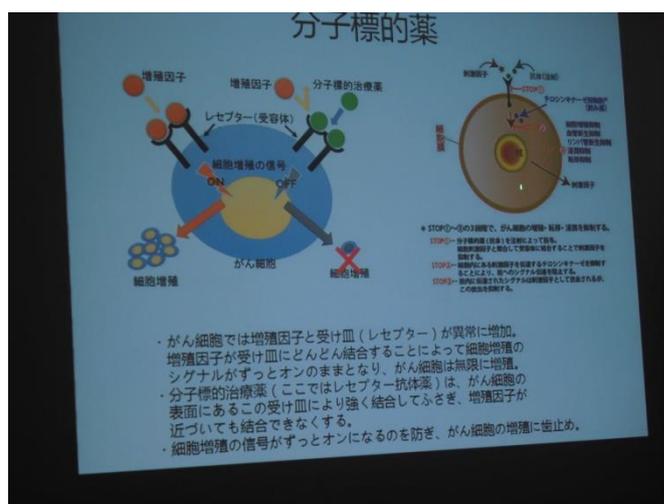
教育研修

日時：H30年8月28日（火） 17時より開始

場所：新王子病院 4F 会議室A

症例：島〇 〇氏 71才 男性

講師：JCHO九州病院腎臓内科 田村 泰久先生



透析患者における悪性腫瘍

透析患者の悪性腫瘍発生の相対危険度	悪性腫瘍の発生日位(率)	
腎臓	3.6~24.1	消化器系癌 46.7%
膀胱および尿管	1.5~16.4	泌尿器系癌 25.0%
甲状腺および他の内分泌器	2.28	乳がん 7.8%
子宮	2.7~4.3	呼吸器系がん 5.7%
前立腺	0.93	男性生殖系癌 4.0%
肝臓	1.4~4.5	甲状腺および女性生殖系がん 3.1%
舌	1.9	
多発性骨髄腫	4.0	

九州・沖縄の調査で23042人中980人(4.0%)に悪性腫瘍が発生 (腫瘍学 2011)

透析症例では悪性腫瘍の中でも腎がんの発症頻度は一般人口に比べ極めて高く、嚢胞との鑑別が難しく発見が遅れることがある。また、治療も一般患者と比べ、免疫が低下しているため合併症や副作用が出やすい状態である。今回の症例である島〇氏においても、抗がん剤の治療にて癌は縮小傾向であったが間質性肺炎合併し、ステロイド治療に切り替えることとなった。当院でも初めての症例でもあった。透析患者は悪性腫瘍を発生するリスクが大きいことから、日々の状態の変化に注意して観察していきたいと感じました。